

熊本市立湖東中学校から

心温まる応援メッセージが届きました

2月27日の土曜日、ちょっと仕事で学校に来てみると、長い箱状の郵便物が学校に届いていました。送り主は「熊本市立湖東中学校（高木）」、品名欄には「応援メッセージ」と書かれていました。

箱を開けてみると、右の写真の応援メッセージと裏面の2通の手紙が入っていました。手紙にあるとおり、このメッセージは、ニュースの報道を見て、受験が終わった3年生10数名の生徒を中心に制作したとのこと。自分たちが被災した時の経験から、物資の支援よりも他県の人たちが気にかけてくれているという精神的な安心感の方が今も心に残っているという思いから、福島県庁に送るメッセージに加え、直接被災した本校へのメッセージを再度作成して送ってくれたという温かい思いの込められた応援メッセージです。

報道で大きく取りあげられたので、記憶にある人が多いと思いますが、熊本城の石垣が大きく崩れたのが、今から5年前の2016年4月16日発生した熊本地震の時でした。当時の記録を見ると、4月14日の午後9半前の震度7から始まった大きな余震が熊本地方を襲い、16日の午前1時45分には震度7、マグニチュード7.3と最大を記録し、16日朝10時前まで、震度6弱～7の大きな揺れが7回、他の小さな余震は数え切れないほど続いていたようです。

10年前、2011年3月11日午後2時46分の東日本大震災の時は、最大震度は7と熊本と同じぐらいでしたが、マグニチュードが9.0。これは日本国内観測史上最大規模であり、1900年以降、世界でも4番目の規模の地震だったそうです。この時は5月末まで大きな揺れが続き、震度5弱～6強の余震が33回、震度4だとその他に135回も観測されていました。

東日本大震災の時、皆さんはまだ3～5歳だったので、こうした地震の恐怖は具体的な形で記憶に残っている人は少ないと思いますが、でも家族の緊張や恐怖心などが伝わり、とても怖かったという印象が大きく心に残っている人も多いかもしれません。その後も、津波や地震の被害を記録した悲惨な映像などを見たりして、怖かったという気持ちが大きくあるのかもしれないですね。

熊本の湖東中学校の3年生にとっては5年前ですので、小学校5年生の時、記憶にも鮮明に残っていて、そのときの恐怖や、大きな地震が続く中でのどうしようもない無力感なども思い出しながらメッセージを書いたのだと思います。

生徒昇降口正面廊下に掲示してありますので温かいメッセージを見てください！



福島市立 飯野中学校 校長先生

飯野中学校の皆さま



前略失礼いたします。

大変な中に本校の生徒からのメッセージをお送りして申し訳ありません。十三日に起きた地震によって、飯野中学校では断水があり、休校となったことが熊本でも報道されました。本校では、自分たちも五年前に被災した経験があり、福島のことを思う心を伝えたいと、メッセージを送る活動を十五日から始めていました。しかし、その報道を見た生徒の中から、福島県全体ではなく、同じ中学生にメッセージを送ることが、より自分たちの気持ちを伝えることにならないかと、貴校へのメッセージ作りも活動に加えしました。

福島県庁に送るつもりで書いていたメッセージの一部を「飯野中学校の皆さんへ」として制作しましたが、自分たちのメッセージの内容を見直した生徒の一人が「これでは、中学生の心には届かないのではないかと」発言。そこからさらに書き直して本日完成しました。(別紙にて生徒が書いている手紙に詳しく書いております。)

中心に活動した三年生は、進路が決まった十数名です。彼らは、小学生の時に熊本地震で被災し、さまざまな県からの励ましに、たくさんのお力をいただきました。子どもたちにその時のことを聞いたら、「子どもだからでしょうけれど」、物資の応援よりも、他県の方が気にかけてくださっている

突然お手紙を差し上げる失礼をお許しください。

私は熊本県熊本市立湖東中学校の三年生です。このたびの地震で被災された方々には心からお見舞い申し上げます。さて本日は、先日学校の水道が止まっている中受験の為に三年生が公民館に臨時登校しているというニュースを拝見し、微力ながら力になりたいと考え、メッセージを送らせていただきました。受験が終わった生徒を主体に限られた時間の中、何度も話し合い作りしました。広用紙には福島県と熊本県のゆるキャラであるキビタンとくまモンを描いています。回収は休日を挟んだ三日間、強制はしない中でこれだけ多くの湖東中生徒が皆様を思いメッセージを書きました。できる限り多くの方々に見て喜んでいただけると幸いです。復興に向け、ご尽力されている皆様にはご無理をなさらないようご自愛ください。遠隔地故、これほどの支援しかできないことを心苦しく思っておりますが、私も熊本地震を経験しているからこそ、小さな支援も大きな支えになることを知っています。私達の小さな支援も皆様の支えになれると嬉しいのです。

皆様の安全と、一日も早く平穏な生活に戻られることを湖東中学校一同、心よりお祈り申し上げます。

令和三年

二月 二十二日

湖東中学校一同

飯野中学校

校長先生

平川

生徒の皆様

東日本大震災からもうすぐ10年を迎える今、その余震によって水道施設が破損し、2日間だけではありましたが臨時休業を経験した飯野中。また、今回の余震により割れたガラス等で怪我をした人や、自宅の瓦屋根や家具・家財が壊れたという経験をした人もいます。地震の恐怖だけでなく、その被害からこの先どうやって復興・復旧して行けばいいのかという不安もあるかもしれません。でも、遠く熊本から、こうして温かい応援メッセージを送ってくれる人たちがいるということがわかっただけでも、いろいろなことに対して前向きに、希望を持って取り組めるような気持ちが湧いてきます。

残すところ3週間、3年生は2週間となった令和2年度、新型コロナの影響により臨時休業で始まり、冬休み期間中も感染拡大予防のため部活動も休止となり、部活動も含めた学校生活の日数は例年よりもかなり少ない1年間となってしまいましたが、残された一日一日を大切に、この1年間を締めくくることができるよう充実させてほしいと思います。3年生は、明後日3日からの前期選抜に全集中で蓄えてきた力を十二分に発揮して、合格を勝ち取ってください。熊本湖東中の生徒も含め、みんなが応援しています！

と思う精神的な安心感の方が今も心に残っていると話してくれました。私自身、震災以降何度か東北へ足を運び、変化する町や人の暮らしに触れるなかで、東北の方々のことを「気にかける」「子どもを育てていくことが、私にできることだと感じるようになりました。

中学生は、いろいろな活動をしたくても、「子ども」という制約があります。だけど、彼らはいつか大人になります。そんな彼らが、今回の取り組みで「福島」を近くに感じ、自分にてきることを模索し続けていってくればと願っています。

今回の子どもたちの活動が、直接皆さまのお力にならないことは十分承知しています。しかし、子どもたちが純粹に福島の皆様の無事を願う気持ちが少しでもお伝えできれば、そして、この取り組みが未来への種まきとしてお受け取りいただければ幸いです。

日中は春めいたとはいえ、まだまだ寒い日が続いております。不安の多い毎日と存じますが、くれぐれもご無理なさいませぬよう。皆様の日常が一日も回復しますことを心よりお祈り申し上げます。

二月二十四日

湖東中学校 三年学年主任

高木

追伸、事前にお電話もせずに直接お送りしたことをお許しください。電話などをしてお時間を取ることが申し訳ない思い、このような行動をいたしました。お返事なども結構です。